

今、私たちができる平和

賀来小中学校 六年 小田原 希侑

「原爆をB29に積み込んだのも、投下を命じたのも、原爆を作ったのも、作るように指示したのも人間です。戦争を起こすのは人間なのです。」

これは、戦争の絵本『火のトンネル』に書かれていた一文です。

私はこの言葉を見たとき、とても驚きました。原爆は、勝手に作られたものではなく、勝手に落とされていたわけでもない。人間が考え、人間が決断し、人間の手によって起こされたものだったのです。すべて、人間の手によって作られたもので戦争は始まったんだと気づき、ドキッとしました。

では、なぜその人間同士の戦争は始まってしまったのでしょうか。学校や本で調べてみると、そこには様々な国の事情や、複雑な背景がありました。

当時の日本は景気が悪く、深刻な貧しさから抜け出すために海外へ進出し、土地や資源を手に入れようとしていました。しかし、その動きに危機感を持ったアメリカやイギリスなどの国々は激しく反発し、日本への石油や鉄の輸出をストップしたそうです。資源を絶たれて追い詰められた日本は、今度は東南アジアへ向かい、そこを守る国々とともに大きな戦争を始めてしまいました。

私はこの歴史を知ったとき、一方の国だけが悪いとは言えない、国と国との対立の恐ろしさを感じました。それぞれの国に言い分や引き下がない理由があり、お互いの欲や不信感がエスカレートした結果、何万人もの尊い命が失われる最悪の結末を招いてしまったのです。「もしあの時、お互いがもっと話し合えていたら」と考えずにはいられません。戦争は、一度始まってしまえば誰も止められなくなる、人間の過ちなのだと思っていました。

ところで、二〇二五年、初めて被爆者の方の人数が、十万人を下回ったことを知っていますか。私は、被爆者の方々から直接話を聞ける今だからこそ、その体験や思いを学ぶことが大切だと思います。そして、話を聞いた人がまた別の人へ伝えることで、戦争の記憶を未来へつないでいくことができるのではないのでしょうか。

今の世界や日本が向き合うべき現実には、戦争や原爆の恐ろしさを知る人を増やしていくことです。そのためには、家族や学校、インターネットなどを通して学び、自分より年下の人たちにも伝えていくことが大切です。また、ルールを守ること、悪口を言わないこと、暴力をふるわないことなど、身近なところから平和をつくることもできると思います。

私は、自分にできる平和への小さな第一歩として、困っている人を助けたい。誰にでも優しく接したい。また、今世界で起こっている戦争のニュースにも関心を持ち、平和について考え続けていきたい。学んだことを自分だけで終わらせず、家族や友達、そして次の世代へと、伝えていきます。

平和をつくることは難しいことのように思えます。しかし、相手を思いやることや、人の話をしっかり聞くことなど、私たちにでもできることはたくさんあります。私は、自分にできる平和について考え、行動し続けたいです。一人一人の小さな行動でも、それが積み重なれば大きな力になります。私は、その小さな第一歩が、いつか世界の平和につながると信じています。